

令和7年度 大淀中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	116	57	50	4.8	9.7
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
	理科
学校	487
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	120	67.7	54.3	56.8	48.7	61.2	5.0	5.5	10.6	8.4	5.4
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4

※ 3年生の理科はB問題を選択

令和7年度 大淀中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞全国と比較して、平均正答率が2.7ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうか」、「表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうか」を問う問題など、全国平均を14問中11問で上回った。その中でも、「事象や行為を表す語彙について理解しているかどうか」を問う問題については全国平均を10ポイント以上上回った。

＜数学＞全国と比較して、平均正答率が1.7ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうか」、「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうか」などを問う問題など、全国平均を15問中11問で上回った。その中でも、「数量を文字用いた式で表すことができるかどうか」、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明できるかどうか」を問う問題など、5問で全国平均を5ポイント以上上回った。

＜理科＞全国と比較して、平均IRTスコアが16ポイント下回ったが、大阪府平均と同スコアであった。各設問ごとで比較すると、「電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうか」、「科学的な探求を通してまとめたものを他者が発表する場面において、探求から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうか」を問う問題など、10問中4問で全国平均を上回った。その中でも、「ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識及び技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうか」を問う問題で、全国平均を5ポイント以上上回った。

○チャレンジテスト(3年)

＜国語＞大阪府と比較して、平均正答率が3.5ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「行書の書き方を理解しているかどうか」、「自分の立場や考えが明確になるように、論理の展開などに注意して話を構成することができるかどうか」を問う問題など、大阪府平均を32問中26問で上回った。その中でも、「自分の立場や考えが明確になるよう、根拠の大切さに注意して話すことができるかどうか」、「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容の理解に役立てることができるかどうか」を問う問題については大阪府平均を10ポイント以上上回った。

＜社会＞大阪府と比較して、平均正答率が3.1ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「大化の改新について理解しているかどうか」、「資料から読み取れる情報をもとに考察することができるかどうか」を問う問題など、大阪府平均を39問中22問で上回った。その中でも、「葛飾北斎について理解しているかどうか」、「土地の標高について、地形図から読み取れる情報をもとに考察することができるかどうか」を問う問題など6問で大阪府平均を10ポイント以上上回った。

＜数学＞大阪府と比較して、平均正答率が2.9ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「変化する数量の特徴を捉え、グラフに表すことができるかどうか」、「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうか」などを問う問題など、大阪府平均を33問中27問で上回った。その中でも、「表から必要な情報を求めることができるかどうか」を問う問題については大阪府平均を10ポイント以上上回った。

＜理科＞大阪府と比較して、平均正答率が2.7ポイント上回った。各設問ごとで比較すると、「再結晶について理解しているかどうか」、「中緯度上空を吹く風について考え、火山灰がその風に流されることを説明することができるかどうか」を問う問題など、大阪府平均を30問中18問で上回った。その中でも、「減数分裂について理解しているかどうか」、「弦を張る強さにより、音の波形がどのように変化するか考えることができるかどうか」を問う問題については大阪府平均を10ポイント以上上回った。

＜英語＞大阪府と比較して、平均正答率が8.0ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「日常的な話題について、ポスターを読み、それについてのまとまつた会話を聞き、話の概要を捉えて、内容の要点を正確に把握することができるかどうか」、「話や文法事項等を理解して、正しい文を書くことができるかどうか」を問う問題など、全国平均を35問中33問で上回った。その中でも、「与えられた情報に基づいて、支持された語彙で正しい英語を書くことができるかどうか」、「校外学習における学習の流れの説明を聞き、説明の概要を捉えて、内容の要点を適切に把握することができるかどうか」を問う問題など13問で大阪府平均を10ポイント以上上回った。

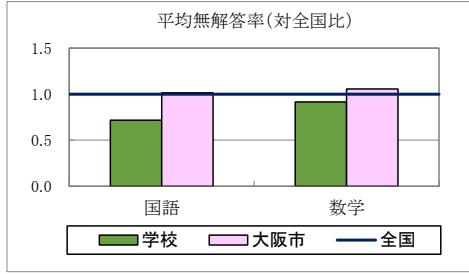
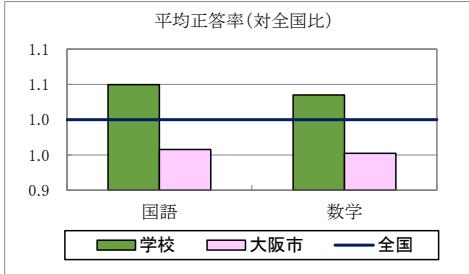
令和7年度 大淀中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【全 体】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	57	50
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

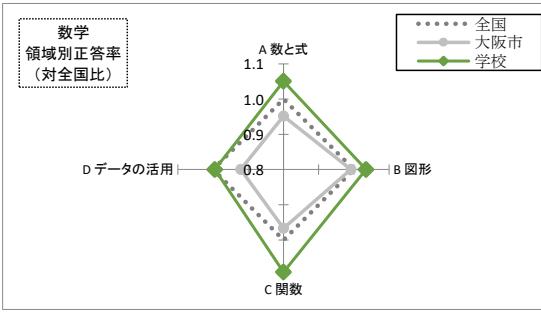
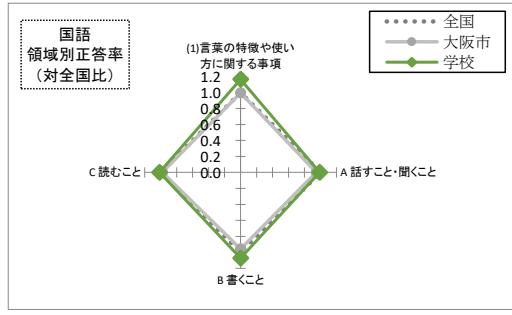
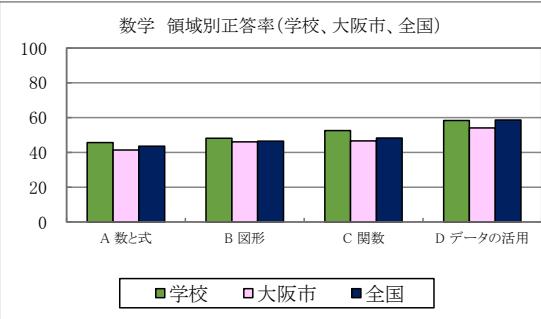
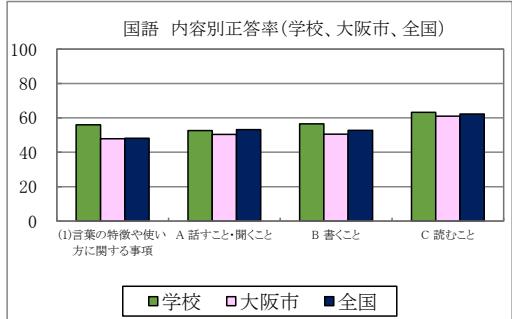
平均無解答率(%)	
国語	数学
4.8	9.7
6.8	11.2
6.7	10.6



【国 語】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	56.0	47.9	48.1
(2)情報の扱い方にに関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	52.6	50.4	53.2
B 書くこと	5	56.6	50.6	52.8
C 読むこと	3	63.2	61.0	62.3

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	45.7	41.4	43.5
B 図形	4	48.1	46.1	46.5
C 関数	3	52.6	46.6	48.2
D データの活用	3	58.3	54.0	58.6

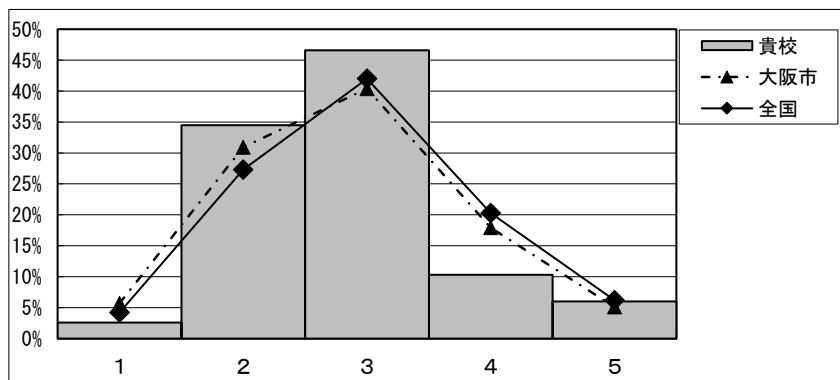
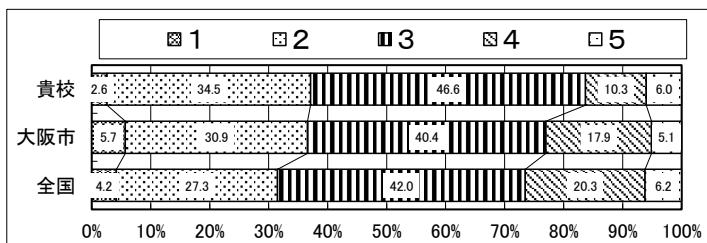


令和7年度 大淀中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	487
大阪市	489
全国	503



令和7年度 大淀中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

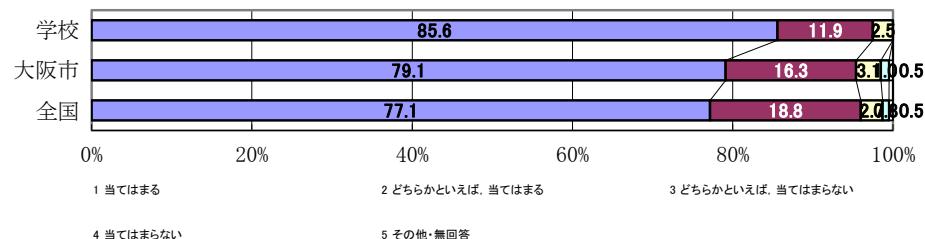
生徒質問より

■ 1 ■ 2 □ 3 □ 4 □ 5 ■ 6 ■ 7 ■ 8

質問番号
質問事項

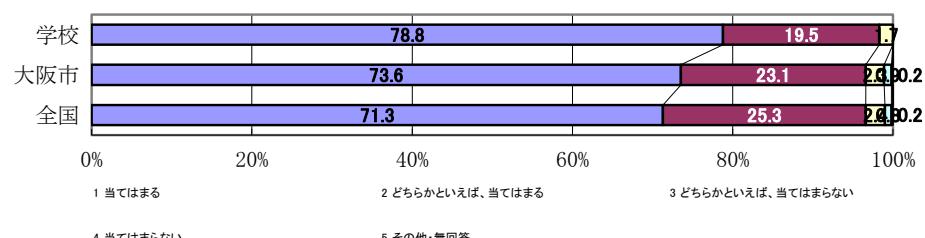
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



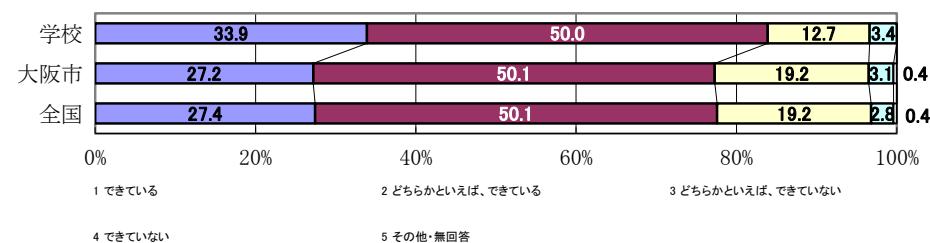
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



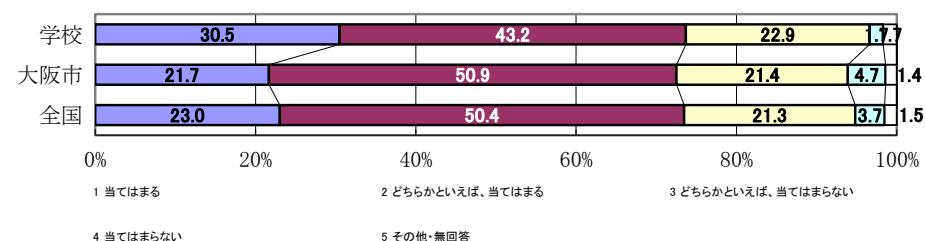
16

分からぬことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



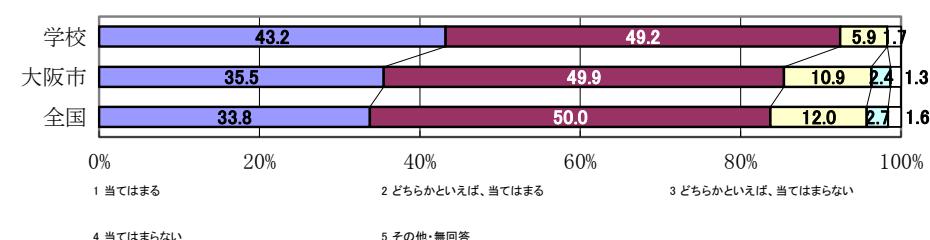
36

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか



38

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか



令和7年度 大淀中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

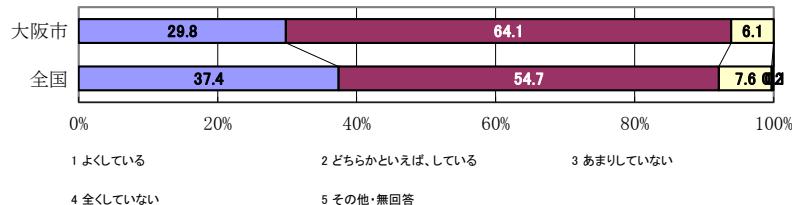
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

16

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか

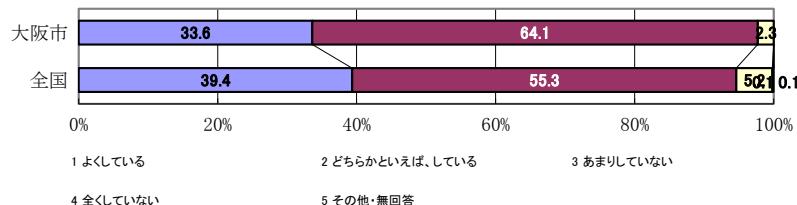
学校 「よくしている」を選択



17

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

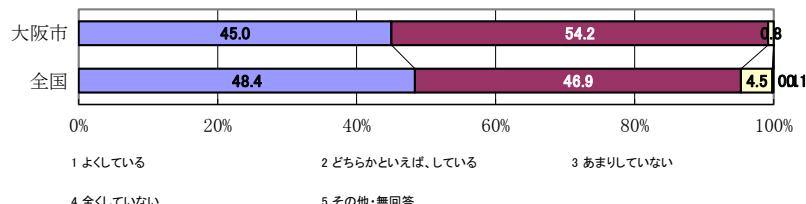
学校 「よくしている」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

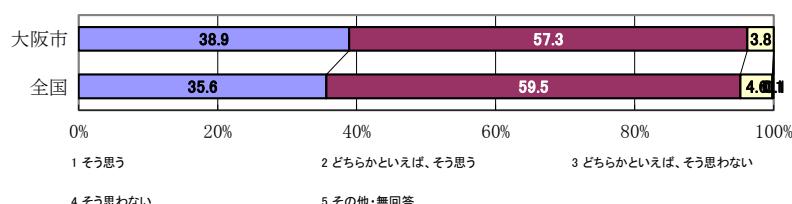
学校 「よくしている」を選択



28

調査対象学年の生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考え方を大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めていると思いますか

学校 「そう思う」を選択



31

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

学校 「よく行った」を選択

